

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
埼玉県川越市上寺山 216-1
〒350-0826 Tel.049(227)5588

星野学園小学校
Web

www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/

冬の学校

一年間の集大成

苗場スキー場で行われる冬の学校は、一年間のまとめとなる大切な行事だ。スキーの上達だけではなく、それぞれの学年に応じた自立を目指し生活する場でもある。

二月二日(木)、四、六年生は、二泊三日の冬の学校に一足先に出発した。当日は、気温が低く、猛吹雪の中の実習となったが、子どもたちの意欲的に取り組む姿からは、スキーを楽しみ、上達したいという強い気持ち伝わってきた。また、ナイタースキーでは、五・六年生は百パーセント、四年生を合わせても九十八パーセント以上という参加率からもその思いが感じられた。

三日(金)には、一、二、三年生が出発した。一泊二日の日程だが、あつという間に過ぎていく。一年生は、学校を離れての初めての宿泊行事であったが、帰る頃の表情からは、やりきったという自信が感じられた。そして、一年生だけでなく、全学年が最後までスキー実習を楽しんだ。(水村)

低学年の成長

冬の学校では、子どもたちの一年間の成長を感じることができた。

スキー実習は、レベルに合わせて少人数グループに分かれ指導を受ける。インストラクターは、子ども一人ひとりの名前を覚えて、それぞれの子どもに合った指導をしていく。インストラクターの丁寧な指導のおかげで、普段はできなことがあった。



最終日は、絶好のスキー日和となった。

ぐにあきらめてしまいがち行動する。自分たう子も、何度転んでもちで身支度を整え、五起き上がり、挑戦し続分前には集合し、時間けることができた。ま通りの行動をするこた、周りの子も「大丈夫とができていた。友だ夫？」と声を掛け、助ちと一緒に風呂に入ったり、次の日の準備をしたりと自分た生活の面でも子どもが成長できる場であいくことは、自分で活で活かしているのだとさちで時間を確かめな感じた。

もっ一つの魅力

冬の学校では、一、三年生は四時間、四、六年生はナイタースキーを含めるとなんと九時間以上も実習を行うことになる。つまり、卒業までに最長約四十時間もの時間を滑ることになるのだ。一年生の時にはスキーが初めてだった子も、六年生にもなると華麗なパラレルターンを披露してくるまでに成長する。

冬の学校は、その実習時間の長さが魅力的ではあるが、子どもたちが元気に実習を行うことができるとは、ホテルで味わうことのできる絶品の料理に支えられている。帰りのバスの中で「一年生の頃はできなかったことが二年生になってできるようになった。」「来年はハの字滑りができるようになりたいな。」という子どもたちの声が聞こえてきた。冬の学校での成長を、学校生活で活かしていきたい。(小玉)

星野学園小学校 Web

本校のウェブページでは、星野っ子の日常や、楽しい行事の様子をアップしております。本紙と併せてご覧ください。

更新中!

2月2日(木) 四～六年生の夕食 (ビュッフェ形式)

スモークサーモンサラダ仕立て
ミネストローネスープ
ハムと野菜のマカロニグラタン
メカジキのミラノ風パン粉焼
鶏もも肉の照り焼き
ハンバーグ きのこデミソース
豚肩ロースのロースト 香草トマトソース
フライドポテト ミックスピザ
フルーツ2種&フルーツポンチ
盛り合わせサラダ (ドレッシング2種)
デザート (5種類) パン (2種類)
こしひかりライス
オレンジ・Gフルーツ・野菜飲料
手振りうどん (温つゆ)
かき揚げぶら
鶏の親子煮
味噌汁
肉焼売
春巻き
ソース焼そば



おいしそうな料理に大興奮!

今回はその中でも、四年生以上の食事を紹介したい。右の表に示されているのが、四、五、六年生の一日目の夕食メニューである。四、五、六年生は、朝食と夕食がビュッフェ形式なのだが、この品数の多さに注目していただきたい。しかも、ただ品数が多いだけではなく、その味もまた格別なのである。野菜は新鮮そのものだった。実習を目標に楽しむためのエネルギー源でありながらも、子どもたちのお腹と心を満たしてくれる食事であった。(杉谷)

読書タワー

星野学園小学校では、一年生から六年生までの全学年で「星野☆読書タワー」という読書活動を行っている。学期毎に、読んだ冊数の多い上位五名の児童が全校児童の前で表彰される。また、クラス全員が規定の冊数を読むことができるので、その冊数に応じて特別賞が与えられる。児童は、電車内等の通学時間や、帰宅後の時間に読書を行っている。登下校だけではなく、家でも時間を見つけて読書をしている。また、学校の図書室だけでなく、近所の図書館にもよく通っている子どもも多い。学級でもおすすめの本を紹介する機会を作り、本に興味をもち、読書を楽しめる児童を育てたい。(水村)



終業式で表彰されました。



一月十日(火)、十一日(水)にお正月会が行われた。星野学園小学校のお正月会とは、カルタや百人一首、書き初めを通じてお正月を楽しむ行事である。



読み札が読まれた瞬間、一気に緊張感が高まる。

お正月会の一日目は、カルタ会である。子どもたちにとって、日本の伝統的な遊びを楽しむ良い機会となった。一、二年生は、小学棟の隣にある生徒会館の和室で行い、普段とは違う雰囲気緊張感をもって取り組んだ。一年生は「生活カルタ」、二年生は「いろはかるた」にそれぞれ挑戦した。読み札が読まれると真剣に取り札を探し、その姿がかわいらしかった。二年生の中にも、最後は順位ごとの異学年での対戦となる。自主学習では、三年生「ことり」、四年生「大とね」、五年生「七草がゆ」、六年生「早春の山」と、本番に向けて学年が上がる、課題の難易度も上がり、文ればよいのか。実際に授業が行われる場所、



真剣な表情で自分の字に向き合った。

瞬間に札を取る子どもは、冬休み中に家で練習をしたり、国語の授業で学んだことわざを覚えてきたりと、カルタ会に向けてしっかりと準備をする子や、自主学習で自分自身の「生活カルタ」を作ったという子もいた。お正月に家族みんなで楽しむという子もいた。お正月は、普段使う鉛筆と違って、緊張感を持って取り組む機会に、今年も星野カッパの試合が行われた。一、二年生は、フェルトペンを使得っての書き初め挑戦し、一年生はお互いの書いた字を見合う良い機会となった。



一月十八日(水)、防災訓練が行われた。今回は、不審者が学校に侵入したことを想定して行われた。避難後、副校長からの講話に続き、さすまたの説明がなされた。いざというときのために、今後も継続的に避難訓練を行っていく。(杉谷)



実際にさすまたを用いて取り押さえた。

場所や大きさ、字のバランスなどを確かめる。上・下級生関係なく、全員が真ながら書いていく。普段の書きの授業で学んだ、「止め、はね、はらい」などを意識して丁寧に取り組んだ。一人ひとりが自分の文字に向き合う姿勢からは、緊張感が伝わってきた。子どもたちが書いた作品は、校内に掲示し、学年を越えてお互いの書いた字を見合う良い機会となった。(水村)

シリーズ 星小の教科指導

第八回「家庭科」

星野学園小学校の家庭科では、自発的に手を動かし、五感を使った経験を積むことを大切にしている。五年生では、健康に生活していくための食生活の大切さを学び、伝統的な日常食であるご飯とみそ汁を調理した。子どもたちが感じる授業を行った。子どもたちが「鯉節を薄く削った方が好き」と削り方の違いにまで気づく子どももいた。素材そのもので炊いたご飯は、健康な身体を作る食事のあり方を考える引き出しを増やすことに繋がる。家庭科の授業で味わった達成感、そして五感を通じた経験を積むことで、自分に自信を持ち、より良い生活を送るために考え実践する力を培っていききたい。(小玉)

分たちで炊いたご飯は、健康な身体を作る食事のあり方を考える引き出しを増やすことに繋がる。家庭科の授業で味わった達成感、そして五感を通じた経験を積むことで、自分に自信を持ち、より良い生活を送るために考え実践する力を培っていききたい。(小玉)



素材と向き合う調理実習。

星野カッパ

今年も星野カッパ(全クラス対抗のサッカー大会)の季節がやってきた。現在までに予選リーグの全対戦が終了し、いよいよ決勝トーナメントが始まる。低、中学年の予選グループは、上の学年が順当に勝ち上がった。二年生は、二十一世紀杯として決勝トーナメントに進出するたために、中学年との対戦が組まれる。学年差を埋める特別ルールも



一致団結。連日、熱い戦いが繰り広げられている。

埋める特別ルールも分たちで炊いたご飯は、健康な身体を作る食事のあり方を考える引き出しを増やすことに繋がる。家庭科の授業で味わった達成感、そして五感を通じた経験を積むことで、自分に自信を持ち、より良い生活を送るために考え実践する力を培っていききたい。(小玉)